



つづく つながる 夢を育てる学び舎

国立二小だより

令和4年(2022年)7月20日

国立市立国立第二小学校

校長 小林 理人

困り事から生まれる幸せ

校長 小林 理人

例年にない猛暑、感染者数の急増、悲しい事件や紛争のニュースなど不安や心配が尽きない社会情勢の中、子供たちの頑張りや保護者、地域の皆様の力強い支えや温かいご協力により1学期も無事終業式を迎えました。子供たちや学校を支えてくださっている皆様に心から感謝申し上げます。1学期の結びに、心温まる嬉しいお話を紹介します。

休み時間はメリハリのある学校生活を送る上でとても大切な時間です。子供たちは好きな場所で好きな人と好きなことをして過ごします。校庭で遊ぶ子供たちに人気の遊びのひとつに一輪車遊びがあります。休み時間や放課後キッズなどには一輪車を使いたい子供たちの順番待ちができることもよくあります。また、時にはそのことが原因となりトラブルに発展することもあり、一輪車で遊ぶことを楽しみにしている子供たちにとっては大きな困り事になっていました。

5月のある日、1人の子供が困った表情を浮かべて校長室に来ました。どうしたのかと尋ねると次のような話をしてくれました。

「今日は一輪車を使いたくて順番を待っていたらチャイムが鳴って休み時間が終わってしまいました。悔しくて、悲しくて我慢できずにここに来ました。一輪車の台数を増やすことはできませんか。」

私はこの困り事はその子供一人の問題ではないと感じ、とても大切な問題であることを説明し、みんなの問題として代表委員会に相談することを提案しました。また、台数を増やすことについても先生方と相談をすることを約束しました。

しばらくして、代表委員会の子供たちが「一輪車の使い方」についての約束を決めたのでみんなに説明がしたいと相談に来てくれました。約束の内容は「優先的に使える学年を決めて、使っていない一輪車があれば他の学年が使える」というものでした。私は一輪車のことを代表委員会で取り上げた理由を聞いてみました。すると、議題ポストの中に入っていた意見がきっかけとなり、困っている友達の問題を解決するために仲良く使う方法を話しあったと説明をしてくれました。そして、議題ポストにあった意見は私に困り事を相談してくれた子供が書いたものであることも付け加えてくれました。

私は、代表委員会の子供たちが議題ポストに入っていた困り事を取り上げて話し合いをしてくれたことを嬉しく思い、全校朝会で説明をしてもらうことにしました。

全校朝会が終わった後、私は一輪車のことで相談に来てくれた子供にどうしても伝えたいことがありました。それは、困り事を私に訴えて終わりにするのではなく、代表委員会の議題ポストに書いて入れた行動の素晴らしさと、その行動によってみんなが仲良く遊ぶことができたり、同様の困り事をもっている人の助けになったりしたことの価値の大きさです。そのことを伝えると相談をしてくれた子供は笑顔浮かべてこう言いました。

「二小では困っている人がいると、助けてくれる人がいるんだね。二小に来てよかった。」

私は二小のみんなが褒めてもらったような気持ちになって「ありがとう」と笑顔で答えました。

また、同じころ、PTAのベルマーク担当の方が購入するものを副校長に相談していました。一輪車の事で困っている子供たちがいることを伝えると、昨年度までに貯めたベルマークや今年度集めるベルマークを使って一輪車の購入を検討してくださることになりました。

困り事は誰もが抱えていることです。自分の力で解決することももちろん必要です。しかし、1人の力では解決することが出来ない困り事もあります。そんな時、それを言葉にして人に伝えることで困り事を一緒に考えてくれる人に出会ったり、困り事を解決できる人に伝わったり思わぬ協力者や支援者が現れたりするのだと思います。そして、一輪車のようにその困り事をみんなの力で解決することでみんなの幸せが生れることもあるのです。

明日から夏休みが始まります。夏休みはご家族で過ごす時間も多くなります。その時間を活用して子供も含め、ご家族の困り事やその解決に向けての道筋を語らう時間をつくってみるのもいいかもしれません。